

弁護士法人福岡法律事務所

代表弁護士福岡則博、弁護士尾崎悠吾、弁護士松村隆志

〒665-0845 兵庫県宝塚市栄町2丁目2番1号ソリオ3(5階)

TEL: 0797-87-5606 FAX: 0797-87-7160

事務所HP: <https://www.fukuma-law.com/>

Mail: office@fukuma-law.com

執筆: 弁護士福岡則博



企業法務専門サイト: <https://fukuma-komon.com/>

不動産専門サイト: <https://fukuma-fudousan.com/>

相続専門サイト: <https://www.fukuma-souzoku.com/>

離婚専門サイト: <https://fukuma-rikon.com/>

「その島のひとたちは、ひとの話をきかない ～精神科医、「自殺希少地域」に行く」(森川すいめい著 青土社 2018年)

1 なんとも衝撃的なタイトルであるが、その内容は、精神科医である著者が日本で自殺が少ないとされている地域5カ所を6回にわたり訪問した記録である。これらの地域の共通性を見いだすことができるかについては、興味深いところであり、著者はその成果を最終章にまとめたとし、フィンランドで生まれた精神疾患療法であるオープンダイアログという方法を紹介している。これは、困った人を中心に、その人を心配する人たちが集まってワイワイガヤガヤ対話すればなんとかなるかも知れないという曖昧なスタイルとされる。しかしながら、率直に言って、著者の訪問体験から、この方法が帰納的に説明ないし論証されているかは疑問であり、この最終章とそれまでの訪問体験記には乖離があるように思われる。本書の魅力は、率直なところ、自殺の少ない地域の種々の特性が具体的に示されているところであろう。

2 著者が有していた自殺希少地域のイメージは、気遣う人がいっぱいいる「癒しの空間」であった。しかし著者が最初の訪問先の宿で直面したのは、賞味期限の切れたお菓子を出されたことである。「ほうかほうか。さすが若い人やね。若い人はそういうの気にすんのやね。ほうかほうか」。この地域は、赤い羽根募金の寄付率が低いところでもある。しかし、著者の歯が痛み、歯科医をさがすが見つからないでいると、おやじさんは、休んでいる歯医者さんを起こして診療させようとする。著者が遠方の県庁所在地まで出かけようとする、おやじさんは、「ここから82キロ先にある歯医者さんが今日やっているのが分かったから、送るわ」と言う。著者がこれを断って散歩に出ると、近所の人「あん

た、歯が痛い人やろ、大丈夫か?」と聞いてくる。そして著者は、自分の歯の痛みが近所中に知れ渡っていることを知ることになる。「ここに個人情報保護という概念は成立しない」のだとつぶやく。

3 他の自殺希少地域の島で、著者は、別の島からその島に来た男性から話を聞く。著者は「さぞ、優しい人がたくさんいるとか、陰口などがほとんどないとか、そういう話を期待していた」のだが、その男性は、「島に来て、鍛えられました」、そして本書のタイトルである「この島の人は、人の話を聞かない」という言葉を述べるのである。どういうことかということ、男性が「自分の好きな歌手を人に言えば、その人もいいねと言ってくれるので、てっきりその歌手の歌を聞いてくれるかと思っていたら、全く聞いてくれなかったりする」と言う。そして、その島人は「相手に同調せず、自分は自分であり、他人は他人である。その境界がとても明瞭である」と言うのである。著者は、「自殺で亡くなる人が少ない地域と言うのは、自分をしっかりと持っていて、それを周りもしっかりと受け止めている地域である」と述べる。

4 本書の中で、北欧を旅行していた際に聞いたある女性の話が紹介されている。「幸せな国ランキング上位」にあるとされる北欧に住んでいる日本人は、生きやすいと思う人と生きにくいと思う人に分かれるという。日本では、どこそこの会社に勤めている夫の妻であるというような立場を基礎として近所付き合いが始まるのに対し、北欧では、肩書きや立場ではなく、「あなたは誰であるか。何を考え、何ができるのか」が問われる。「どちらがいいのかどうか分からないが、人が生きることにおいて他人に左右されない強さを持つのは、後者(北欧)の生き方であろう」としており、これは自殺防止について著者が出した結論のひとつであろう。